

COP10に出展

出展報告「生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)・交流フェア」

増田 直広

当学会では、設立20周年記念事業として、田んぼ国際環境教育会議を2007～2009年度にかけて実施してきた。その中で、田んぼは環境教育の場であるだけでなく、生物多様性の場でもあることも議論された。本年は生物多様性条約第10回締約国会議（以下「COP10」と表記）が名古屋で行われることもあり、さらに多くの皆さんに3年間の会議の成果を知っていただくこと、標記交流フェアに出展することとなった。（主催：本学会、共催：アジア田んぼの学校・社団法人農村環境整備センター・財団法人キープ協会、協力：積水化学工業株式会社）

交流フェアはCOP10期間中の2010年10月11日～29日に開催され、当学会は最終週の10月23日～29日にブースを出展した。出展内容は、①当学会の概要、②田んぼ国際環境教育会議の成果報告、③学会員の活動紹介で構成され、外国人来訪者への対応を想定し、各種情報は日本語と英語の併記とした。今回用に作成したパネルや学会案内などは、今後も様々な舞台で活用できるものだが、同時によりわかりやすく人の目を惹くパネル類の作成の必要性も感じた。



COP10 交流フェアにおける当学会ブース

交流フェア全体では118,647人の来訪者があったと報告されているが、当学会ブースへの立ち寄り数は約500人であった。来訪者のほとんどは

日本人であったが、国際色豊かなCOP10のため外国人来訪者もあり、中には当学会を目指して来たというオーストラリア人の嬉しい来訪もあった。来訪者は環境教育の研究者や実践者は勿論、NPOなどの市民団体、企業関係者、行政担当者など様々であったが、大半は環境教育に関する情報・アイデア・教材などを求めているようだった。また、一般市民や高校生以下の生徒など、これまで接点の少なかった層に当学会の存在を知ってもらえたことは収穫と言える。同時にそういった層の皆さんに知っていただくためのチャンネルを増やすことや紹介ツールの作成の必要性を感じた。

今回の出展ではいくつかの試みをした。1つめはアウトリーチを通して、当学会へのニーズを知ることであった。来訪者とのコミュニケーションを通して、そもそも学会とは何か？ 当学会の社会的役割は？などを考える機会となった。また、多くの来訪者は環境教育に関する教材集や事例集、人材紹介を求めていたことから、当学会の果たすべき役割の一端が見えてきたように思う。

2つめは出展運営にボランティアを募ったことである。結果、7人のボランティア（会員および学生）の皆さんが、設営から来訪者対応などに力を貸して下さった。会員の皆さんに学会運営に積極的に参画していただくきっかけとなれば幸いである。

今回の出展を通じて、当学会の存在や田んぼ国際環境教育会議の成果を知っていただけたが、同時に当学会の社会的役割を明確にするための必要性も感じた。今後、当学会がさらに成長するためにも、今回の経験を学会運営に反映させていきたい。

最後に今回の出展に当たって、ご支援いただいた関係者・関係機関、展示設営や運営へご協力、現場の激励をいただいた会員の皆さんに感謝申し上げます。

（ますだ なおひろ／学会理事 国際交流委員会・財団法人キープ協会）